

小中連携の視点から捉えた学力向上

～小・中学校間の円滑な接続を通して～

平成27年度乙訓学力向上対策会議

平成27年度に乙訓教育局管内で実践された小中連携の取組を5つのポイントにまとめました。

ポイント1 『各種診断テスト等の分析結果を活用する。(基礎・基本の定着)』

小中学校の合同研究会では、授業参観を通じた授業研究や指導方法の研究にとどまらず、学力診断テスト結果の分析をもとにした指導方法の研究も行われています。

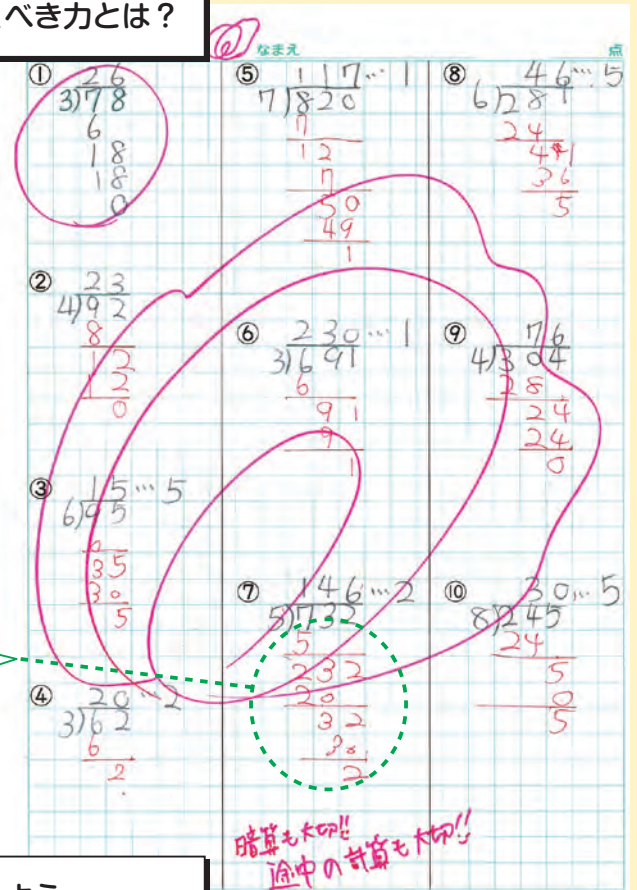
【長岡中学校区での実践例】 小学校で身に付けておくべき力とは？

「基礎・基本の定着に向け小学校で身に付けておくべき力とは？」というテーマで協議をしました。そこでは、次の2つの指導項目について確認しました。

- 国語…習った漢字は、できるだけ漢字で書こう！
- 算数・数学…途中の式をしっかりと書こう！

(ノート指導の実例)

学習塾などで勉強している子どもは、暗算で答えだけをノートに書くといったことが見られます。しかし、中学校の数学では、どのように考えてその問題を解いたのか。どこで間違っただのかを確認することが重要となってきます。このため、小学校から指導を徹底してほしいという意見が出されました。



【寺戸中学校区での実践例】 話型をしっかりと意識させよう

言語活動の取組について交流する中から、話し合いの際の話型について、校区内の小学校で共通した指導を進めることにしました。



校区内の小学校で、同じ話型シートを使うことが、中学校での話し合い活動につながります。

② 交流するとき

話し方の例

- 「今から・・・について話し合います。」
 - 「初めに自分の考えを一人ずつ発表してください。」
 - その後で、その意見についての質問や意見を出してもらいます。では、・・・さんから考えを言ってください。」
 - ◇ 「・・・さんに質問です・・・はどうですか。」
 - ◇ 「・・・のところがいいと思います。」
 - ◇ 「・・・さんの考えもいいと思いますが、・・・の方がいいと思います。」
 - ◇ 「・・・さんにつけくわえます。」
- 「このグループの中で、一番分かりやすく、なっとくできる考えはどれですか。理由も言ってください。・・・さんからどうぞ。」



ポイント2 『学習に向かう姿勢を身に付ける。(学習習慣の定着)』

小学校で身に付けた学習習慣が中学校でも継続し、成果があらわれています。

【西ノ岡中学校区での実践例】 中学校での朝読書もスムーズに定着



小学校での取組によって、中学校での朝読書もスムーズに定着しています。部活動などで忙しい中学生になっても、本を読む習慣は大切にしたいです。



本に親しむ習慣ができていますので…
～写真は1年生と6年生のペア読書の様子。
様々な工夫で読書活動を行っています。～

スムーズな接続

中学校での朝読書につながります。

ポイント3 『研究テーマをつなげる。(主体的・協働的な学びの充実)』

小中学校の重点研究でテーマを共有しながら研究に取り組めば、子どもはあたりまえのこととして、定着すること(学習方法等)が増えてきます。

【長岡第四中学校区での実践例】 小学校・中学校が「学力向上システム開発校」として研究を交流

各学校の研究テーマを授業参観等で交流し、テーマの実現に向けて研究継続することを確認しました。

(例)

- 学習形態の継続 (グループ学習、話し合い)
- 学習ツールの継続 (ミニホワイトボードの活用)
- 中学校における評価問題の研究

子ども達は話し合いの学習場面で、ざっと机を合わせ話し合いを始めることができます。

中学校でも机をしっかり寄せて、男子と女子が協力して課題に取り組んでいます。



小学校では、いろいろな場面でグループ学習を経験しているので…

スムーズな接続



中学校でもスムーズにグループ学習に取り組むことができます。

ポイント4 『自己肯定感や自己有用感を高める。(自尊感情の育成)』

異年齢集団でのさまざまな交流が、子どもの意識や意欲を高めることにつながっています。

【勝山中学校区での実践例】

中学校での部活動体験や行事見学



小学生は、見学だけでなく実際に体験することで部活動へのイメージを持ちます。中学生は、先輩としての手本、となる意識が生まれます。

【長岡第二中学校区での実践例】

学校説明会では中学生が小学生に説明



中学校が主催者となって校区の全6年生を集めてガイダンスを実施。中学生が小学生からの質問に答えたり、小学生が自校の紹介をしたりして、中学校生活への期待を高めています。

【長岡第三中学校区での実践事例】

小・中学校の児童生徒があいさつ運動で交流



中学校生徒会本部が小学校に出向いてあいさつ運動に参加しています。このような取組で交流の機会を増やしています。

【勝山中学校区での実践事例】

中学生が小学校に出向いて職場体験



中学生の職場体験を小学校で受け入れることで、子ども同士の交流の中から、様々な成果が期待できるだけでなく、小学校の教員も卒業した中学生、の姿に成長を実感することができます。

学力向上の基盤として、子どもの自尊感情を高め、主体的に学習しようとする意欲へと繋げる取組が進んでいます。

中学生にとっては、小学生に教えたり、伝えたりする経験で先輩としての自覚が促されます。

小学生にとっては、中学生と交流することで中学校生活への不安が解消され期待感が膨らむ効果がみられます。

ポイント5 『9年間を見通した指導を行う。(校種間の連携の充実)』

「義務教育の9年間（連続した9年間）」を意識し、今何を大切にするかを明確にする指導方法の改善や授業力を高める研修が行われています。

【寺戸中学校区での実践事例】授業研究で指導案を統一

理科学習指導案

指導者：

第6学年1組(33名) 平成27年10月15日 第1校時 (6年1組教室)

1 単元(題材)名・教材名 「月と太陽」

2 学習の系統

小3
かげのめき方と太陽の光
(日影の位置と太陽の動き)
(地面の影がまやまや変り変わる様子)

小4
月や星
(月の形と動き)
(星の明るさ、色)
(星の動き)

小5
月と太陽
(月の位置や形と太陽の位置)
(月の表面の様子)

中3
天体の動きと地球の自転・公転
(日周運動と自転)
(年周運動と公転)
(太陽系と恒星)
(太陽の様子)
(月の運動と見え方)
(惑星と流星)

3 本時の目標

- 月の形の見え方について、模擬体での実験の意味を理解して正確に記録することができる。

4 本時の展開(2/6)

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価の観点) (評価方法)
導入	前時の学習内容確認	月や太陽の形や見え方を発表する。	一言	前時の学習を振り返り、月と太陽の様子を思い出させる。	月の形の見え方について、模擬体での実験の意味を理解して正確に記録することができる。(観察・実験の対話)
	めあての提示	月の形の見え方が日によって変わるの、どうしてだろうか。			
	経験の交流	疑問に見えた月の様子を交流する。 【児童の反応例】	ペア 一言	太陽の位置と月の位置との関係を意識させる。	

カリキュラムのつながりを意識するために、指導案の書き方を工夫しています。

学習指導案の中に、「2 学習の系統」の項を起こし、明記しています。当該学年と前後の学年の系統を記載し、本時の内容がこれまでの学習とどのようにつながり、今後どのように発展していくのかを把握することで、つまずきに気付いたり、見通しを持たせたりすることに生かすことができます。
(向日市では他の学校でも実践が進んでいます。)

【長岡第三中学校区での実践事例】お互いの専門性に学ぶ



中学校教員による「理科講座」、「美術講座」、小学校教員による「道徳講座」を行いました。

理科講座では「観察方法と顕微鏡の使い方」、美術講座では「鑑賞のポイント」、全ての教員が共通して学べる領域として「道徳」を研修し、指導力を高め合いました。

【大山崎中学校区での実践例】乗り入れ授業！



中学校の教員が小学校へ出向き、全教科で授業を行っています。(乗り入れ授業)

児童理解を深めることで、中学校で見通しを持った指導を行うことができます。

小中連携から 小小連携の充実へ

小中連携の取組から、同じ中学校区の小学校間でも連携を深める取組が進んでいます。

- 校区の小学校が道徳教育を重点に！（長岡中学校区）
- 家庭学習の手引きの共有化を！（大山崎中学校区）
- 学習評価の規準の交流！（長岡第三中学校区）
- 「話型シート」の共有化！（寺戸中学校区）

京都府教育委員会「平成28年度学校教育の重点」では、5つの視点を効果的にカリキュラムに位置付けることを、重点戦略として掲げています。

① 基礎・基本の定着

② 学習習慣の定着

③ 主体的・協働的な学びの充実

④ 自尊感情の育成

⑤ 校種間連携の充実